

社会福祉法人 西仁会広報誌

発行：西仁会広報委員会(管理部)

〒320-0851 宇都宮市鶴田町 3375

TEL 028-632-7577

FAX 028-632-7571

滝の原便り



井伊直弼

梅雨入りから約一月半、7月19日梅雨明けの発表がありました。今年は梅雨という実感があまりありませんでした。そんな梅雨(?)の晴れ間に「幕末の大老・井伊直弼(彦根藩15代藩主)」の本県での足跡を追って佐野市に出かけてまいりました。

井伊家の始祖は「井伊共保」で、平安時代中期(1000年頃)、生誕地の近く「井伊谷(いのや・静岡県浜松市)」に城を構え「井伊」姓を名乗ったのが始まりとされています。現在、NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」が放映されていますが、縁戚や寺院などに置いて育てられた幼い男子「虎松(後の直政)」が15歳のとき徳川家康に仕え、驚異的なスピードで出世を遂げ、井伊家24代宗主「直正」は彦根藩祖(初代)となり、そして譜代大名の筆頭として彦根に井伊家の礎を築いたのです。直正の二男・直孝(2代藩主)のとき、新しい城(彦根城)が築かれ、彦根藩35万石の城下町が完成します。1683年には下野安蘇郡佐野領(幕府直轄地)のうち、15か村を井伊家が拝領することになります。佐野は、元々戦国大名佐野家の領地でありましたが、1604年佐野家の改易(領地没収)された後は幕府直轄地(3万9千石)となり、大名(井伊家・堀田家)や旗本の領地に分割され、井伊家が最大の1万8千石を佐野に保有することになります。

時代は220年下った1863年3月、15代藩主井伊直弼が日光社参の帰りに佐野領の巡見にやってくるのです。勿論、藩主が佐野領を巡見にくるのは初めての事です。この巡見にあたって、その年の正月に村役人が集められ、そこで実施の日程が伝えられ、巡見の道順や休憩・宿泊場所などが決められました。また「勤労・勤勉な者」「奇特な者」「80歳以上の者」などを事前に調べ提出することや、巡見の際は「食事は一汁一菜」「酒は一切出さない」などが申し渡されました。これは巡見時に村人を表彰したり、村人に負担をかけまいとする配慮からです。

3月20日に日光社参を済ませた直弼一行67名(323名とする記録もある)は、23日栃木宿を発ち例弊使街道を通り昼前に佐野領内(天伏宿)に入りました。以降27日まで領内15か村の状況を直弼自身の目で確認する巡見が行われ、その後栗橋、草加、江戸へと帰途につきました。

直弼は、この巡見の途中で、堀米村(佐野市堀米町)にある「天應寺」に立ち寄り参拝をしています。この寺は曹洞宗の寺院で、2代藩主・直孝が佐野領を拝領した際、井伊家の菩提寺として直孝の手により現在の地に建立されました。直弼参拝の当時、ここには2代藩主「直孝」と3代の「直澄」の墓碑があり、遺髪が納められていると伝えられています。

直弼は、この7年後(1860年)の3月3日、江戸・桜田門外で水戸浪士らに暗殺されるのです。直弼46歳のときでした。遺骸は、豪徳寺(東京都世田谷区)に埋葬されましたが、遺髪と短冊(辞世の句)は、この天應寺に納められているといわれています。直弼の詠んだ句は「またまた暗殺される前日に作られたもので、本来なら辞世の句といえるものではないのかも知れません。」「咲きかけし たけき心の ひと房は 散りての後ぞ世に匂ひける」この句は「国を想って来た熱い気持ちは、自分の死後、きつと後世に理解されるだろう」と一般に意識されています。

天應寺には、直弼が20年前に手を合わせた先祖の「直孝」その子「直澄」の横にひと際立派な唐破風つきの直弼の石碑が建っています。大老時代の2年間、直弼の為政に対する評価は、二分化されますが、彦根藩主としての直弼は、藩政改革を断行し善政を敷いた藩主として彦根の人々から今日でも深く敬愛されているのです。この佐野飛び領においても同様であり、後の安政の大獄で処刑された吉田松陰も「慈悲深い名君」と評していた程なのです。井伊直弼の辞世の句には、開国が正義、それを信じ前に進めることが自分の使命、将来の日本のためだという強い信念が感じ取れます。開国を断行した「直弼」は、今日の日本の国際化の状況をどのように受けとめられるでしょうか。(高野)



老人保健施設ファミール滝の原



「5月5日 こどもの日」

喫茶店で出るようなお子様ランチをイメージしての考案です。ハンバーグやナポリタン・チキンライス等お子様ランチの大人バージョンの食事を楽しみました。



「5月13日 春の苑遊会」

雨のため、リハビリスペースで春の苑遊会を開催。職員の出し物に爆笑。クイズをご家族と一緒に考えたりと楽しい時間を過ごしました。昼食バイキングも好評で皆さん大満足でした。



「6月14日 ご当地ランチ」

6月15日が栃木県民の日と言うことで、栃木の食材を使ったご当地メニューの登場です。湯葉料理や宇都宮餃子・佐野の芋フライ等々、何からいただいたら良いか迷ってしまえそうです。



「6月21日 小旅行ベルモール」

雨にもめげずに出かけてきました。アルパカとのふれあいはかないませんでした。犬を抱かせてもらったり、なでなでしたりで、ワンちゃんと一緒に触れ合うことができました。



「6月10・17・24日 和風喫茶」

フロアー毎に開催。事前に用意した飲み物のリストから皆さんに選んでいただきました。一番人気は冷やし甘酒。おやつにはみたらし団子、みそ田楽、ほかほか黒蒸しパン、梅ゼリー等が並びました。「こんなに食べられない」という声も聞かれましたが、皆さん全て完食。甘いものは別腹ですね。



「7月7日 七夕」

短冊に思い思いの願いを書き、飾りつけました。昼食は七夕そうめん・七夕ちらし・天ぷら等見た目も豪華なメニューです。おやつには色鮮やかでかわいくトッピングされた七夕ゼリー。



通所リハビリテーション

端午の節句

5月5日は、こどもの日のお祝いでも、お子様ランチ風の昼食におやつは柏餅。みなさんとても美味しく召し上がっていました。



壁画作成

6月はアジサイの飾り。色とりどりのアジサイに、カエルやカタツムリ等々：みなさん上手ですね。一生懸命作ってくださいました。



七夕

短冊に願い事を書いてもらいました。みなさんの願いが叶いますように。



和風喫茶

ケーキや果物、あんみつ・杏仁豆腐・ようかん・ババロア・わらびもちetc. 甘いものは別腹とはよく言ったもので、お腹いっぱいお昼を食べたはずなのに「美味しかった!」「またやって欲しい!」の声多数。ぜひぜひまたやりましょう!



茄子作り

今年からはじまりました施設内菜園。第一弾は「茄子」です! 苗の植え付け、支柱立て、水撒きと手塩にかけて育てました。収穫した茄子は形を変えて食卓に並びました。和え物、味噌汁、マリネ、味噌炒め。みなさん本当に喜んでくださいました。





特別養護老人ホーム滝の原苑



「ひまわり」

5月5日 こどもの日昼食会を開催。たけのこご飯、お刺身盛り合わせ、フライ各種、ウドの煮物、グラタン、トマトのマリネ、手まり麩の清汁、デザートなどが用意され、屋外での食事を楽しめました。



「ドライブ（丸彦製菓）」

6月19日・21日の2日に分けて、日光市にある丸彦製菓へ出掛けました。店内ではいろいろな味のお煎餅を試食し、買物は楽しめました。2日目の参加者は天候に恵まれず雨の中の外出となりましたが楽しいドライブでした。



「昼食バイキング」

6月28日 昼食バイキングを実施しました。メニューは、普段いただけない盛りだくさんの豪華メニューでホテルのバイキングのようでした。皆さん、お腹いっぱいになるまで楽しめました。



「七夕」

7月7日 七夕昼食会・お茶会を開催しました。昼食前にみんなで七夕さまを歌いました。昼食メニューは握り寿司、天ぷら、2種類のつけ汁（めんつゆ・ごまだれ）で味わっていただくそうめんなど。おやつはデザートとの盛り合わせ。スイカの形をした和菓子が人気でした。



「野菜作りはじめました」

中庭でプランター菜園を始めました。茄子やキュウリ、ピーマンなど実った野菜は利用者とともに収穫を楽しんでいます。



ケアハウス滝の原苑

「端午の節句食事会」

5月5日 端午の節句食事会を行いました。豪華メニューに柏餅。大満足の食事会になりました。



「カラオケドライブ」

5月30日 くら寿司にて昼食のあと、カラオケBANBANへ行きました。今回は、パーテイールームで、ゆっくりと思う存分歌を楽しむことができました。



「七夕」

7月に入り、ご利用者が中心となって七夕の飾り付けをしました。暑い日でしたので、昼食はお寿司と天ぷら、そして「そうめん」で夏の涼を味わいました。



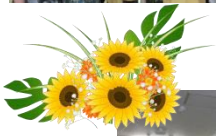
「日光ドライブ」

7月9日 酷暑の中、日光街道ニコニコ本陣へドライブに出かけました。敷地内レストランでの昼食のあと、船村徹記念館へ。土産館では、漬物やお菓子などのお買い物を楽しみました。



「歌川広重 東海道五十三次」

絵画が1階廊下に飾られました。皆さま「旅行に行きたくなるね」などと言いながら鑑賞されていました。



ご存知ですか ええ・井伊直虎は男だった！



NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」を毎週楽しみにされている方もおられるかと思いますが、今年の1月8日から放送が開始されましたが、その半月前(12月半ば)に突如「直虎は男だった!」との情報が新聞やテレビなどで流れ、しかもその発信者が「井伊家末裔の井伊美術館の館長とあって、びっくりされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

何故このようなことが起きたのでしょうか。ドラマでは井伊家22代宗主「直盛」の娘(おとわ)次郎法師(直虎)の許婚であった23代宗主「直親」の死後(1565年)、数年間、井伊谷城の城主として統治していたとされる「直虎」、この直虎に関する史料が極めて少なく、男女も含めどんな素性なのかよく分かっていないのです。「直虎」が生存していた当時の確かな史料等からは次のようなことが言えるのです。

- ①18代直盛の娘(名・出生不詳)は存在した(戒名:妙雲院殿月船祐円大師1583年没)
 - ②井伊谷周辺を実質的に統治していた「次郎法師」という人物(男女不詳)は存在した
 - ③井伊谷周辺を実質的に統治していた「次郎直虎」という人物(男女不詳)は存在した
- しかし、これら人物の相互関係や性別を特定する確かな史料が出てこないのです。大河ドラマではこれらが同一人物(女性)として設定されています。このドラマのいわばベースとなったものが江戸中期に井伊谷龍潭寺の和尚「祖山」が綴った「井伊家伝記」ですが、これは、口碑伝承部分が多く史料としては信頼度が高いものではないのです。

ところで、今回井伊館長が発見されたのは、今川氏真が家臣・関口氏経の息子(直盛の娘の母方の従兄弟)を「井伊谷の領主」井伊次郎として治めさせた記述のある史料(守安公書記)です。つまり井伊家以外の者が「井伊次郎」と名乗り、井伊谷城の一時領主となったこととなります。しかし、この史料は井伊家老が後年(江戸時代寛永年間)に聞き書きしたものであり、また直虎の記述は一切出てこないことなどから史実として断定するに足る資料とはいえないものと考えられます。

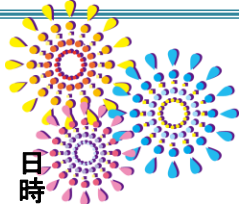
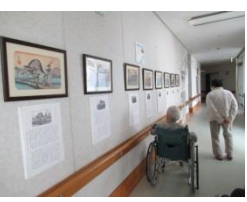
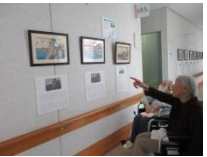
今後直虎に関する新たな史料が発見されるでしょうが、史実として確定されるのはいつになるでしょうか。いずれにしても、ミステリアスな「おんな城主直虎」大いに楽しみましょう。

名画鑑賞通り(エミール・ストリート)がオープンしました

どなたでも、一度はご覧になられた世界の名画を、私達の身近な暮らし、生活の中で、気軽に出会える、触れ合えることができたなら...。そう望む方は少なくはないかと思えます。

そんな願いを叶える「癒しの場」名画鑑賞通り」を各施設内に設け、このたびオープンいたしました。

第1回は、江戸時代後期、爆発的人気を博した浮世絵師「歌川広重」の東海道五十三次を取り上げています。55枚の作品(複製)を5回に分けて展示しています。機会がございましたら是非ご覧ください。



西仁会 地域交流夏祭り

日時 8月19日(土) 18:00~19:50
場所 ファミール滝の原 敷地内駐車場

盆踊りや花火で夏の終わりを楽しみましょう。
屋台も出ます。

お問い合わせのうえ遊びに来てください。



編集雑記

梅雨は既に明けたようですが、今年は「...らしさ」が余り感じられないまま、真夏が到来。いや既に来たのかも知れませんが、それにしても暑い。雨も少ない。そうした中で、九州北部・秋田・北海道と、日本列島の南から北まで各所で記録的な大雨により甚大な被害が発生しています。とりわけ福岡・大分を襲った豪雨は30名をゆうに超える犠牲者を出しています。被災地は、極めて厳しい状況ですが一刻も早い復旧・復興を願うばかりです。

近年、豪雨それとも降らない、地域によって明確に分かれる二極化傾向が顕著になってきていますが、そのせいなのでしょいか、首都圏の水がめのある地域は渇水状態で、現在20%の取水制限措置が取られています。宇都宮では、主な水源「鬼怒川水系(4ダム)」が先月6日から10%取水制限、今のところは市民生活に影響はありませんが、今から節水に努めることにこしたことはありません。

このところ連日のようにメディアで取り上げられている「南米原産のヒアリ(蟻)」、強い毒を持ち繁殖力も強く、定着すると根絶することが難しいとされています。現在、見つかった各地で徹底した駆除を行っています。このヒアリだけは日本には住まわせたくありません。

7月18日、日野原重明さんがお亡くなりました。民間病院として初めての人間ドックを開設、また、成人病と呼ばれてきた脳卒中などの病気を「生活習慣病」という言葉を使うことで予防につなげようという提唱・定着させるなど、予防医学の先駆者でありました。105歳の大往生。100歳を超えてもなお現役医師として日々の診療にあたり、全国各地での講演や執筆活動をこなすなど、正に生涯現役を貫かれた方でした。高齢者のみならず国民の多くの希望の星ではなかったでしょうか。それにしても残念です。

夏と言えば「高校野球」、栃木県代表として昨夏に続いて作新学院が甲子園出場となりました。昨夏は54年振りの優勝でした。連続優勝を目指して頑張ってくださいね。

毎日、猛暑にうんざりですが、これからが夏本番。ご自愛ください。

表紙の光景は篠井地域の「そば畑と山なみ」です。

次回の発行は11月1日発行の秋号になります。

